

風のように



甘木教会

牧師：白川道生

委嘱者：竹田孝一

イエスは“霊”の力に満ちてガリラヤに帰られた。その評判が周りの地方一帯に広まった。イエスは諸会堂で教え、皆から尊敬を受けられた。イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった。預言者イザヤの巻物が渡され、お開きになると、次のように書いてある個所が目にとまった。「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、／主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、／捕らわれている人に解放を、／目の見えない人に視力の回復を告げ、／圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」

ルカによる福音書4:14～19

【説教要旨】

主の恵みの年を告げる

「福島揚、『破局の中の希望』」の内容を次のように纏められている文章に出会いました。「福島氏は現代世界の危機をきわめて真剣かつ深刻にとらえておられ、現在を『破局』に直面する時代とみる。要するに近代化の原動力である資本蓄積から始まった、資本・国家・ネイションが一体となったアクターたちの無際限の競争・闘争によって自然も人間も搾取され、すでに崩壊寸前であるとの認識に立つ。」「崩壊寸前」、私たちも同じように感じているのではないのでしょうか。

イエスさまがガリラヤに帰られたとあります。それは、エルサレムからすれば、辺境地です。わざわざガリラヤに帰られたとイエ

スさまの行動を記したのは、辺境地であった地にイエスさまは関心を寄せられて、ガリラヤに行かれ、ガリラヤを十字架にお架かりになるまで活動の拠点としたということです。イエスさまは、イザヤ書の一文を引用されます。

預言者イザヤの巻物が渡され、お開きになると、次のように書いてある個所が目にとまった。「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、／主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、／捕らわれている人に解放を、／目の見えない人に視力の回復を告げ、／圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。

イエスさまがこの辺境地ガリラヤに帰った目的を示されます。これは、また私たち主・イエス・キリストによって立てられた教会の宣教の姿です。この厳しいすでに崩壊寸前である世界—今日、私たちは貧富差の極大化・生態系破壊・戦争という、これまで人類が経験したことのない三重の地球規模の危機に直面していて貧しい人に、困っている人に、弱っている人に主の福音、主の恵みを伝えることが教会の姿です。

そうは言うけれども、新型コロナウイルス感染拡大、その後の劇的社会変化の中で、私たち小さな教会、またここに集う一人一人は小さな弱いものであって、「自分にとってよければ」という生き方さえできない呻きを持った者が何ができるかという大きな壁が私たちの前に立っています。私たちは、世界が「崩壊寸前」の中で、自分の無力さと弱さを知らされました。しかし、無力と弱さを体で私たちに伝えたのは十字架の主イエス・キリストです。

同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒にあって、代わる代わるイエスを侮辱して言った。「他人は救ったのに、自分は救えない。メシア、イスラエルの王、今すぐ十字架から降りるがいい。それを見たら、信じてやろう。」一緒に十字架につけられた者たちも、イエスをののしった。昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。

三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

マルコによる福音書 15：31－34

イエス・キリストの十字架は、弱さと苦しみの極みであり、十字架の下で、イエス・キリストは「エロイ、エロイ、わが神、わが神」と深いつながりを示されたように、弱さと苦しみは神との臨在を共に味合うのです。それを今日の聖書の日課は次のように言っています。「イエスは“霊”の力に満ち」、「主の霊がわたしの上におられる。」常に自分を超えて出てくる神の霊が働き、満ちているというのです。弱さ、苦しみ、困難、危機を抱えつつも突破していく力、霊の力が働いているのです。それが主に立てられた教会であり、ここに集う一人ひとりです。

私たちは、「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。（マタイによる福音書 25 章 40 節）」という年間聖句を選び、多くの祈りと、色々な形で、小さな教会であるが支援を続けています。聖和幼稚園、松崎保育園という主の業を通して私たちは苦勞をし、子どもたちがこの激変する中で神の愛によって生まれていくように多くのものを使っています。それは、私たちが強かったのではない、弱さをして弱さに共感し、弱さの中で私たちはどこに立っているかという信仰の祈りからでした。福島揚さんが「破局の中の希望」というとき、「破局」、「希望」と矛盾する言葉ですが、ここに逆転があるのです。パウロは「弱い時にこそ強い」と言います。逆転の思想です。「死の中に生を 破局と絶望の中で〈希望〉を」と福島氏はほんの帯に書いています。

これは、信仰者の生き方です。常に自分を超えて出てくる神の霊が働き、満ち、弱さ、苦しみ、困難、危機を抱えつつも突破していく力、霊の力が働いていることを祈りにおいて信じてきた主に立てられた信仰者、教会があり、ここに集う一人ひとりがいたからです。霊に満たされ、霊が降り注いでいる教会であり、教会に集う一人ひとりです。イエスは“霊”の力に満ちてガリラヤに帰られた。

牧師室の小窓からのぞいてみると



トランプ大統領の就任式があった。就任を記念する伝統行事の一つとしてワシントン大聖堂で開かれた礼拝に出席した際、マリアン・エドガー・バディ主教が、性的マイノリティーや移民の人たちが恐怖を感じているとして「慈悲の心を持つように」と諭されました。これに対して、自身のSNSで強く反発し、国民への謝罪を求めましたとインターネットのニュースで見ました。

どうして、アメリカ国民はこういうトランプ大統領を選ぶのか分かりづらいものがあります。

養老孟司が、「ヒトの壁」で次のように言っています。「理性に従って構築された世界は、私にまったく面白くない。自動運転の世界になっても、バグを期待してしまう。そう思っている人も、かなりいるはずある。それが世上いうところの反知性主義、トランプ現象の根元にあるのではなからうか。ふだんは理屈に押されて黙っている。しかし機会があると、反乱を起こす。」

だからこそ「主にあって、堅く立つ」というパウロの言葉を噛み締めたい。



園長・瞑想？迷走記

なぜ、花を植えるか。なぜ、いつも掃除に気をかけるのか、なぜ、建物の管理を気にかけるのか。それは、子どもたちが気持ちよく過ごして欲しいと思う感覚から出たものである。

しかし、時々、思うのですが何事も自然が良いのではないかと。どちらが良いかは分からない。感覚だと思う。

意外と教育の場では、教育者、保育者の感覚で動いているものがあるのではないだろうか。その感覚が子どもにとって良いものとなるように常に心を向けるのも園長の心かもしれない。

日毎の糧

天は神の栄光を物語り／大空は御手の業を示す。

詩篇 19 : 2



「ルターの言葉から」

私たちの最大の誉れ、栄光、讃美は神のみ子キリストをもっていることです。

卓上語録

(『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷堯爾編訳 いのちのことば社)

慈しみと真実の光

元来、2 - 7 節と 8 - 15 節の二つの詩編が一つになったと思われる。

そして19篇が伝えたかったことは、「本篇その点、『宇宙に与えられた神的秩序』（創世記 1・1 - 2・4a 参照）の賛美という主題による一貫性がある。詩編の思想と信仰 I

月本照男 新教出版」②

前半は創造讃歌、後半は律法讃歌である。どうして創造讃歌と律法讃歌が結びついたのであるか。

「創造讃歌に後半の律法讃歌が加えられたのは、天から全地に響き渡る『調べ』とヤハウエを畏れる者の心に響く『律法』とが重ね合わせられたからである。それによって『律法』は創造の神の『言葉』として、天地の運行法則にも似た、より普遍的な地位を獲得することになるだろう（詩篇 119 : 89 - 91 参照）」③

「光あれと」と神が言われたらそこに光があったというように神は言葉をもって、天地創造の物語は語ってきています。聖書は物語であり、神のみ言葉です。天から全地に響き渡る「調べ」の恵みをいただいています。み言葉の恵みの内に私たちの日々としていきましょう。

祈り：主よ、あなたのみ言葉を日々いただき、私たちの生活をみ言葉によって整えさせてください。アーメン。

甘木通信 讃美歌の話3



1988年に日本で「リビングプレイズ」（いのちのことば社）という讃美歌集が出版された。詩篇を分かりやすく讃美できる。伴奏をピアノでも、ギターでも出来て、礼拝を豊かにしてくれる。一度、甘木教会の礼拝に試したい讃美歌集である。

豊田市の元町教会で、毎週、プロジェクターを使って、スクリーンに映し、礼拝式文では当日の「讃美唱」と言われているところで「リビングプレイズ」を使用し、讃美していた。

「平和をはじめて知った」という歌詞を見てみよう。

「平和 はじめて知った イエスに出会ってから 平和
それは湧き上がり 満たし生かす 私たちの心を
愛 はじめて知った イエスに出会ってから愛
それは湧き上がり 満たし生かす 私たちの心を」
この讃美を繰り返し歌う。

最近、よく讃美されるテゼ兄弟の讃美歌も、やさしい旋律で短い歌詞を繰り返す。

グロリア グロリア グロリア 父とみ子に
グロリア グロリア グロリア 聖なる霊に

単純さゆえにだれでも歌える。箱崎教会は、和田牧師が「黙想と祈りの集い」を開いている。一度、YouTubeで聞いて下さい。

(甘木日記)土) 「甘木キリスト講座」で、午前中から甘木に向かう。「天地創造物語」を話す。創世記の天地創造の物語は、説教だと思ふ。日) ゆっくりと朝を迎え、共に礼拝。今日は早く久留米に送っていただいた。太刀洗にある城跡を見せていただく。ここには歴史がある。月) 園児と礼拝、ストーブの周りに来ようとする子と付き合う。火) 最終便で、東京。水) 羽村幼稚園の施設評価委員会。運営委員会。木) 大森幼稚園の電話の名義変更に行く。午後二時半の便で福岡に帰宅。幼稚園と連絡。金) 今日はマラソン大会、保護者と懇談会。今日は園長が最後。施錠。

おまけ・牧師のぐち (続日記) 牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人(牧師)もいますが。



土) 「甘木キリスト教講座」のために午前中から甘木教会に向かう。今日は座骨神経が厳しく痛い。座るのが辛い。「天地創造物語」である。古いがフォン・ライトの「創世記」を基本としてロイド・ネービーから学んだことを話

(日善幼稚園の子が久留米教会の花壇に菜の花の種まき)す。ネービー先生が旧約学の博士号をもらうために猛勉強していたのは久留米、田主丸、松崎で伝道していた時代である。何か縁を感じる。フォン・ライトの「創世記」を翻訳したと思っていたが、本がそのまま書庫に眠っている。夜は近くの温泉に行く。日) 昨日のうちに掃除をしていたので、近所の掃除をする。そして小さな花壇に蓮華、菜の花の種を蒔く。礼拝、そして昼の2時半には信徒さんに久留米まで送っていただく。ありがたい。痛みが取れず同じ姿勢が出来ずにいる。これも歳。月) 今日はゆっくりと起きる。午前中は園児と朝の礼拝をする。ストーブの周りに一人の園児が席を離れやってくる。幸い温かい日で、やけどをしてはいけなと消すと、席に戻る。また点火するとやってくる。消す。この繰り返し。忘れ物を甘木にしていたので夕刻、向かう。火) 幼稚園の「保護者協議会」の報告書を作ることに時間を取られる。終わり、帰宅し、夕食をとって最終便で東京に飛ぶ。同じ姿勢がきつい。水) 朝、十時の施設評価委員会で間に合うように電車に乗ろうとする足を弾きづついている分、足が遅い。

目の前に電車の扉が閉まる。遅れる。委員会、その後、管理者会議。新たな運営方法をめぐって、理事会の準備をする。鬱で倒れてやつともとに戻って回復している友人宅に泊。木) 朝、名義変更していない電話があるので来てほしいということ



で大森幼稚園に行く。結局は名義はしっかりと変更されているので必要ではなかった。維持献金一年分をささげ、足の良い靴を清水の舞台から飛び降りる気持ちで購入し、午後に帰宅。飛行機の外に富士山。富士山はいいですね。金) 幼稚園のマラソン大会。その後、「保護者協議会」、幼稚園の教育、保育の方向性について報告。今日は今のところ座骨神経痛の痛みは治まっている。